

# 令和7年度 特別養護老人ホーム サン・スマイル 事業報告

## 1. 主要事項

特別養護老人ホームサン・スマイルの利用状況（利用率）

- ・施設入所事業（定員 50 名）…92.5%（前年度 93.8%）  
年間入所者数：13 名・退所者数：14 名
- ・短期入所事業（定員 10 名）…57.7%（前年度 31.9%）
- ・通所介護事業（定員 23 名）…89.5%（前年度 85.5%）
- ・居宅介護支援事業…要介護者…月平均 70.6 件（前年度 71.4 件）

要支援及び事業対象者…月平均 33.2 件（前年度 24 件）

令和7年度は感染症も落ち着き、通常の施設運営を行う事ができた。ご利用者の快適な生活空間作りと安心安全な施設生活を継続して頂く為、日々の体調変化に敏感に対応しながら看護・介護で利用者を支える事ができた。

最近の傾向として、特養への入所申込が減少傾向にある。理由として、特養への入所は空き待ちの期間が掛る為、早目に入れるグループホームやサービス付き高齢者住宅を選択されるケースが多くなってきている。それを打開する為、年間を通し施設の PR 活動を出雲圏域はもとより、大田・雲南圏域までを実施した事で、出雲市以外の利用者の獲得も行う事ができた。

入所に至っては、依然として利用者の入れ替わりは多く、入所されても長くて2年・短いと月単位で終了される傾向にある。理由として挙げられる1つには、在宅サービスが整っている為、できるだけ自宅生活を送り、90歳を過ぎて入所申込を提出される事。2つ目には病気の進行によるもの等があげられる。しかし、そのような状況下においても、利用者支援として楽しく快適に過ごして頂ける様、保育園児やボランティアの方との交流や日々の活動の充実を図った。又、今年度は、2名の方の看取りを行い、個人の尊厳を保ちながら最期までご家族と一緒に過ごせる環境を整え支援する事ができた。

短期入所事業及び通所介護事業に於いては、PR 活動や利用者の声が地域に広まり、利用者の獲得を行う事ができ、実績アップに繋げる事ができた。

人財育成に於いて、トリニティカレッジ専門学校から2名の留学生を迎え、介護助手として環境整備や配膳下膳・洗濯等の間接業務を中心に行って頂き、現場職員も日々サポートを行う事で、伝え方の難しさを痛感したが、コミュニケーションを充分に取りながら互いを思いやり業務遂行に努めた。

今年度、施設：2件 短期：2件 通所：1件 居宅：3件 合計8件もの苦情を受け付けた。どの苦情に於いても、職員の対応が適切でなかった事が引き起こしたものであった。日々職員間で適宜情報共有や事前確認を徹底し行っていく事とした。

又、介護現場での転倒・転落事故等が年間を通し51件あがってきている。発生場所は利用者個室内でベッドからの転落が殆どで、職員が手薄の時間帯での発生になっている。事故リスクは常につきまとい、100%防ぐ事は難しいものの、リスクを放置し大事故を招く事の無いよう利用者の安全を確保する為の ICT 導入も視野に入れ事故防止の精度を高めていきたい。

## 2. 評価・反省

## 【施設サービス】

### 1) 生活支援及び介護

春先には土手の桜の花見、秋は「花の郷」への外出を行った。今年度は近隣の動物病院から毎月アニマルセラピーをお願いし大型犬・柴犬が利用者の膝元に来て、おやつをあげたり、なでる事ができ、利用者も大喜びでとても好評だった。又、サンサン保育の園児との交流として、運動会では利用者と一緒に競技に参加したり、クリスマスには歌やハンドベルの演奏で利用者を楽しませて頂くなど触れ合いの機会が多い1年だった。

ケアプランに沿った支援展開やプライバシーへの配慮。又、拘束等の無いケアなど、職員間で研修を行い利用者個々を尊重した支援に取り組む事ができた。利用者の高齢化に伴う、体調の変化等速やかに即応性のある対応を行い、ご家族とも情報共有に努めた。

利用者が安心・安全な生活を送って頂く為の個別マニュアルの見直しを随時行ったり、ICT（見守り機器…等）を活用しサービスの質の向上や事故の未然回避に努めた。しかし、すべてに於いて速やかな対応ができる訳ではない為、今後もICTの活用方法の検討をしながら事故の未然回避が図れるようにしていく。その為には事故に至るまでの「気づき」が持てるよう職員間で情報の共有を図り対応していく。

### 2) 人材育成

エルダー制度では定期的に新職員・エルダー職員の意見交換の場があり疑問点への解消や間違っていた事への気付の場にもなり、新職・現任職員双方が成長を高め合う事ができたと感じる。また、分からない事をすぐに聞ける環境であり相談しやすい関係性が築けていた。又各委員会主催の研修や法人研修等にもできるだけ職員に参加して頂き、改めて考える場にもなり、知識や技術の向上にも繋がった。

ICTの面ではデモ機の体感などもすることで良いところや悪いところを知る機会にもなった。また、インカムを使用し他職員へ素早く情報伝達ができ、業務効率化が図れた。

職員個々で仕事量のバラツキがあり、改めて階層別での役割を認識し、次年度はチーム全体として考える力が身に付くよう努力していきたい。

### 3) 地域貢献

実習生（専門・看護短大）や社協主体の体験学習など積極的に学生の受け入れを行った。今回初めて、看護短大の学生の受入れ数回に分け受け入れた。利用者の日々の生活状況や医療面について、高齢者施設の在り方について学んで頂く事ができた。

地域との関わりについては、職員へ地域の活動（神西まつり・神西湖一斉清掃等）に参加して頂ける様ボランティア担当より声掛けしたが、一部職員のみ参加に留まった。

施設の取り組みや魅力の発信の為のPR活動を通し、委員会職員と情報共有した上でサービス提供に繋げ幅広い地域からのニーズに対応する事ができ、大きな成果があった。

次年度は地域の課題、求められるニーズを発掘し、施設で何が提供できるか検討し実現に向け取り組んでいきたい。

### 4) 医療・看護

日頃の健康状態の把握と経過観察により、ご利用者の体調変化の早期発見に繋げる事ができ

た。嘱託医と連携し、内服調整や受診の指示を仰ぎ症状に合った対応をしていくことに努めた。多職種間、看護師間での情報共有が不十分な場面もあった為、今後はより良い情報共有の仕組みを検討したり情報共有の大切さへの意識を高めていく。

今年度はサンホームとの施設交換研修を行い、お互いの職場の取り組みや工夫点を学ぶ事で業務改善や応援要請に繋げることができた。今後も勤務状況や感染症の流行状況などにより、互いの施設で協力体制図れるよう継続して合同カンファレンスを実施していく。

施設内でのインフルエンザやコロナなどの感染症の流行はなかったが、義歯の飲み込みや歯のぐらつき、誤嚥性肺炎など口腔内のトラブルに関する事案が目立った。年に2回の歯科往診を有効に活用し、口腔内のトラブルの予防に努めていく。

施設内で「喀痰吸引指導職員」2名の看護師による医療的ケアの現地研修を行い、3名が吸引と経管栄養の資格を取ることができた。又、毎月現任の喀痰吸引の資格を持っている介護職員への現地指導を計画的に実施する事ができた。今後も医療的ケアのできる職員資格取得に向けた体制を整えていきたい。

看取りケアについては、マニュアルも完成し、看取りを実施した人数は少なかったがその人らしい最期を支援できるような体制になりつつあった。今後も全職員が安心して看取りを行ってけるよう研修を重ねていきたい。

## 5) 食生活

旬の食材を使用し、季節感のある食事を取り入れ、見て、食べて楽しめる食事を提供することができた。

ローソンのフードロス削減の取り組みでお米頂き、富士産業との協議の上、利用者に美味しい食事・スイーツの提供をして頂いた。その中で、手打ちそばの実践では利用者も包丁を握りそばを切る事を職員と一緒にする事ができ喜んで頂いた。又、てんぷらを利用者の目の前で揚げて頂くなど、香りや雰囲気を楽しんで頂けるよう食の働きかけができた。しかし食材料費高騰につき生野菜・果物の提供回数の減少や、使用食材に偏りが出てきていることが課題である。ご利用者の食事摂取状況や嚥下状態に迅速に対応し、できるだけ経口摂取が継続でき、栄養状態の維持・改善ができるように多職種で栄養ケアプランに基づいた食支援を行った。

## 6) 個別機能訓練

多職種が連携を取り、ご利用者個々のニーズと身体機能・生活動作能力に応じた計画の策定とサービス提供ができた。また、移乗方法の検討(福祉用具活用)、ポジショニング・シーティングなどの環境整備についても都度スピーディーな対応に努めて実施し、褥瘡・拘縮予防を行うことができた。福祉機器の定着・活用もできており、利用者・職員共に負担のないノーリフティングケアの推進ができていく。

ポジショニング・移乗技術においては、職員間で技術や意識のムラがあり、安全かつ効果的な実施が行えていない部分もあった。また、自立支援の観点より、利用者の能力を十分に引き出すための動作指導や誘導が実施できていない事もあった。今後は更に多職種との連携を深め、利用者の自立支援を努めていきたい。また、施設内外の研修・指導を充実させ、職員のスキルアップに向け取り組んでいきたい。

## 7) 防災・防犯

年2回の避難訓練では、地元消防署、消防団に交互に来ていただき、訓練後の助言を聴き避難想定マニュアルが分かり易く実際に火災等が起きた時に、迅速な対応へ繋がるよう見直しを行った。又、災害時を想定し利用者の方にも協力して頂き、昼食時に炊き出し訓練を実施した。職員で手順の確認と役割分担を決め想定時間内に利用者に提供する事ができた。

定期的な防災メールでは、今年度初めて本部から防災メールの発信があった際、返信が遅れる職員もおし声掛けを行った。今後は実際の火災や自然災害を想定しての訓練も実施していき、自然災害BCP訓練は年2回実施し、1回目は備蓄食の炊き出し訓練の実施、2回目は停電を想定し始めて、入浴中の救助方法をグループ内で検討しマニュアルに盛り込む事とした。

不審者対応訓練では、さすまたの使用方法だけでなく、職員が不審者役となり、実践訓練も行った。実践訓練をした事で課題も見えてきた為、次年度マニュアルの変更や更なる課題の抽出を行っていく。

## 8) 住環境

利用者が安心して安全に生活できるよう職員一人一人が感染症対策の意識を持ち、消毒や換気、各所の清掃を行い、利用者が感染症にかかることなく過ごされた。利用者の各居室も利用者一人一人に合わせたレイアウトや居室内環境の整備を行い、危険のないように努めた。利用者一人一人が快適に生活できるよう個室及び食堂やパブリックルーム等の共有スペースの温度管理にも努めた。

また、共有スペースに創作物等の飾り付けや展示、各種行事の告知等の掲示を行い、利用者が季節を感じ、楽しみを持って行事に参加してもらえるようにした。利用者家族やボランティア等外部の方を気持ちよく迎えらるよう正面玄関の飾り付けや環境美化に努めた。

### 【居宅サービス】

#### 1) ショートステイ サン・スマイル

利用者・家族のニーズや思いに添ったサービス提供の為、サービス担当者会議への参加や他サービス事業所へ連絡を取り、日々の生活について情報収集、把握をしサービスに反映できるよう努めた。また、居宅サービス計画書に基づいてサービスを提供できるよう、計画の変更や介護保険更新時にはケアマネジャーや他事業所と情報共有を行い、計画に沿ったサービス提供ができるように対応を行った。

今年度は昨年度よりも利用者数が増加し、利用者同士の交流が多く見られた。また、施設内でアニマルセラピー等の新たな取り組みがあったことから、楽しんで頂ける活動も多くあり例年よりも活動の機会が増加した。その他にも日々のレクリエーションや季節に合わせた行事、創作活動等にも参加して頂けるよう促し、楽しんで頂くことができた。

健康管理については利用前日にご家族に体調確認の事前連絡を行い、来所時にもバイタルチェックを行った。また、入浴前にも検温や血圧測定を行い、都度体調の確認をしながら安全に入浴をして頂けるように対応した。利用中は都度様子観察を行い、異常発見時には家族や担当ケアマネジャーに連絡し、状況報告や受診を勧める等の対応を行った。昼食、夕食前のリハビリ体操は機能訓練指導員を中心に行い、参加していただく事ができ、利用中も自宅での生活と同様に身体機能の維持に繋がるよう、歩行等の見守りや日常生活動作等を意識して声掛けや介助

を行った。

食事に関しては、利用者個々にあった食形態で提供し、食事時の様子や体調、身体機能の変化がある際に都度見直しを行った。又、嗜好や食事量についても、利用中の様子を見ながら、利用者本人に確認したり家族に家での食事の様子を聞きながら対応した。

個人情報・プライバシーの保護に関しては、十分に配慮し、利用者一人ひとりを尊重した対応を行うことができた。

リスクマネジメントとして、利用中に発生するリスクについて、自宅や他サービス利用時の様子を参考にすることで対応した。その為、家族やケアマネジャー、他事業所と情報共有を行い、個々人に適した対応を行えるように努めた。センサーマットを使用している方へは、利用中の様子や本人・家族の意向を受け、適宜現場とも協議しながら検討、実施し事故防止に努めた。

## 2) デイサービス サン・スマイル

現在、定員 23 名で月平均の利用者数が 20 名を超え、利用率も 9 割に近づいている状況。地域に根差した通所介護の役割を果たす事ができる様になってきたと実感した。

日々の活動に於いては、天候に併せて屋外のテラスで花植えやお茶会を実施。又外出やバイキング昼食など季節を感じて頂ける活動を取り入れた。またボランティア（麻雀・調理・演芸等）の来所や保育園児との交流など地域との関わりの機会が広がり、利用者の表情も明るく、とても喜んで頂いた。

家族懇談会を利用者の来所中の時間に合わせ実施し、日々の活動の様子を見て頂き、家族と日頃の状況確認や家庭の様子等の情報交換も行う事ができ、より利用者を知る事に繋がった。又、入所施設や短期入所の説明や見学をして頂き SS 利用に繋がった。

個別機能訓練では、介護福祉士や看護師、理学療法士など他職種が連携し、本人や家族の意向を伺い、又かかりつけ医の意見を取り入れながら計画も立案した。小集団訓練又は、1対1の個別訓練は利用者が楽しみながら実施でき生活機能や能力の維持向上を図る事ができた。

災害・感染症が発生した場合を想定し、いざという時に迅速に対応できるよう自然災害・感染症 BCP 訓練を実施した。

次年度も、様々な情報を収集し、新たな活動メニューが提案できる様、利用者・職員が一体となり楽しみや役割をもって取り組める計画を立案し、利用者支援に活かしていきたい。

## 3) ケアプラン サン・スマイル

ケアプラン サン・スマイルは、居宅の利用者現況状況を行政（出雲市）や包括支援センター（出雲高齢者あんしん支援センター）へ現況報告・受け入れ可能人数等を伝える事で、新規利用者の獲得に努めた。

昨年分析より、出雲市西部地域の初回介護保険申請年齢が若いタイミングで行われ、軽度認定者が多い状況から、介護予防利用者の受け入れも積極的に行ってきた。結果、利用者は少しずつ増加してきている。要支援利用者を受け入れながら関わる中で、ご利用者より「入所や通所サービスを併設するサン・スマイルへの魅力をお話され、安心して生活できる」と話される場面が沢山あった。また、各家庭へポスティング活動を行った際、サン・スマイルのサービスを確認されたり、「またお願いします」といった声を肌で感じる事ができた。

新規依頼が来ると迅速な初動対応を心掛け取り組んだ。介護支援専門員 2 名体制で初回訪問を

行う事で、多様なニーズの把握ができ、支援やサービス利用等につなげる事ができた。  
高齢者夫婦世帯、独居世帯が増加傾向にあり、今後益々増加していくと言われる中でシャドーワークが増えており、地域資源にいかにつなげていくかが重要と痛感した。迅速な業務遂行に努める反面、一つの業務に対して時間配分が適切にできており、非効率の事もあった。今後、非効率となりそうな業務について、居宅会議等にて進捗状況を確認・共有しながらより適切な対応を進めていく事ができる様、取り組んでいきたい。